



樹蔭静け

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL: 0155 (37) 5501
発行日 令和3年2月26日

コロナ対策徹底しスキー授業



コロナの影響で実施が危ぶまれていたスキー授業ですが、バスを1クラス2台に増やし、スキー場での食事予約制にするなど、できる限りの感染症対策を施した上で実施しました。例年通り1年次は2グループに分けて芽室スキー場で各2回。2年次は年次全体でサホロスキー場で2回実施し、大きなケガもなくウィンタースポーツを安全かつ楽しく取り組むという初期の目的を達することができました。

全体統括の体育科主任・山本浩介教諭は「最近スキー授業をやめる学校が増えていますが、日常と違う環境での体験学習は今の子どもたちに必要なものだと感じています。2日間ですが、滑ったことがない生徒もどんどん滑れるようになり、自分の成長を実感していくことができます。その意味では自分の物差しが変わる授業だと思っています。今までの体験にない楽しさを味わえたらいいですね。」と話してくれました。スキー経験がある生徒は年々減り、今では6割強は未経験者。それぞれのレベルに合った楽しみ方を工夫しているそうで、サホロではスキー初心者でもゴンドラに乗って雄大な景色を楽しむ機会を設けることもあるのだそうです。

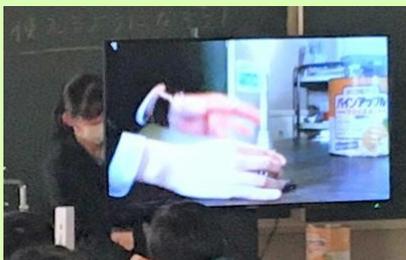
将来にわたってウィンタースポーツに親しんでもらういい機会となったようです。

本校OB 上田様（元札幌市長）より 札幌交響楽団校歌CD贈呈

本校OBで、元札幌市長の上田文雄氏から、札幌交響楽団演奏の本校校歌CDが贈呈されました。これは校歌を札幌交響楽団で演奏するCD制作プロジェクトに、札幌常磐会として取り組んだ成果品として完成したものです。CDには校歌、応援歌の演奏と合唱部による校歌が収録されています。CDの表紙は美術部がデザインしました。現在、HPを訪れた方が聞けるよう準備を進めています。



小・中学校におけるインターンシップ ～ 社会の中で学ぶことに意味がある！



過日行われた道教委主催事業「高校生の小・中学校等におけるインターンシップ」について報告します。今回インターンシップに参加したのは2年生の4人。帯広第二中学校には

5組高瀬ひよりさん、6組加藤しずくさん。帯広西小学校は、1組松浦佑莉那さん、6組伊丹音葉さんです。

今回、二中では二人に授業を任せてくれました。高瀬さんは理科を担当。ガスバーナーの使い方の説明では手元をカメラで写して説明した後、生徒たちが実際にやってみる授業でした。生徒の反応をしっかり受け止める姿が印象的でした。加藤さんは音楽でケチャのリズムをみんなで体験する授業を行いました。授業のテンポが良く、どんどん生徒を乗せていくやりとりが上手でした。振り返

て高瀬さんは「自分から生徒の中に入っていけずコミュニケーション力を高めていかなければいけないと感じました。」と答え、加藤さんは「教員のする仕事は本当にいろいろあって時間管理の必要性を感じました。」と答えてくれました。

一方、西小学校では低、中、高の全ての学年の授業見学と授業補助をしました。1年生と6年生の違いに驚きながらも、その中で指導していく先生方に大いに刺激を受けたようでした。二人は「ICT機器を使うなど、自分たちが受けた授業とは全然違いました。教師はどんどん新しいものに対応していくことが必要だと思いました。」と教師として常に学ぶ姿勢が大事だということを理解したようでした。4人にとって自分の進路を考える素晴らしい機会となりました。西小学校、第二中学校の校長先生はじめ指導して下さった多くの先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。



美術部校外展【未完成創造力】開催中

会期：2月28日（日）まで 11:00～19:30
最終日15:00まで
会場：ギャラリーオリザ（ミントカフェ内）
帯広市大通南6丁目



第10回 3年次主任 鈴木裕司 教諭

これからの人生、元気で楽しく生きてほしい



◆旅のすすめ

今、キャンプが流行っていますが、私は子供の頃から旅行＝キャンプでした。風を感じ、川や海の音を聞いているだけで癒やされます。小枝を拾い集め焚き火をするのが私の楽しみです。炎のゆらぎを見ながらパチッと木が爆ぜる音を聞く、至福の時です。釣りも好きなので、釣った魚をさばいて家族と一緒に食べるまでが私の釣り。キャンプしながら道内外、色んな所に旅をしました。その土地の言葉聞き、美味しいものを食べ、文化を知る。旅っていいですね。

◆外の世界は面白い

私は帯広から富山大学に進学しました。「なぜ富山に？」とよく聞かれます。高校3年の模試で志望校判定のところは何気なく富山大学と書いてみたら、少ない志望者の中で1位になったことがあったので、それで富山大学に進学するといういい加減さ（笑）。でも外の世界に出て行くことは、間違いないいいことで、もの見方が変わります。所変われば…というのは本場で、例えば大自然といえば北海道ですが、富山もすごい。北アルプスが迫ってくるんです。もうホント壁みたい。雨晴（あまはらし）海岸から見る立山連峰は、北海道の雄大な景色とはまた違う絶景です。日本三大大仏の一つは富山にあるって知ってましたか？奈良、鎌倉、そして高岡です。他にも、ホテルイカ、鱒寿司、高山銅器、世界遺産・五箇山…富山愛が止まりません。ちなみに妻も富山出身。同じ大学で

す。私の初任地は羅臼高校で、三条に転勤してから結婚したのですが、結婚披露宴は立浪先生に発起人代表をしていただきました。立浪先生、その節はお世話になりました。

◆波瀾万丈の3年間

思い返すとこの3年間はいろんなことがありました。1年は胆振東部地震。ブラックアウトで試験も延期しました。2年、季節外れのインフルエンザ流行。直後の修学旅行台風直撃。飛行機が飛ばないとわかってからの対応はまさに地獄でした。帰る手段を何とか決めてほっとするとキャンセルの連絡です。また次の手を考えるけれどまたダメの繰り返し。それでも生徒たちは文句を言うわけでもなく、待機の時間を落ち着いて過ごしてくれました。そして、迎えた今年度、言うまでもなくコロナの1年。休校ももちろん大変でしたが、入試方法の変更は生徒には大きな負担となったと思います。それでも生徒たちは本当によく頑張りました。『先の見通せない時代を生き抜く人材を育てる』などというスローガンを聞くことがありますが、まさしく3年生はその中を生き抜いてきたのです。だから、「これからの人生、元気で楽しく生きろよ」と最後に声を掛けたいですね。

インタビュー

きらり

三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

58年ぶりの全国高校総体スケート学校対抗優勝！

スケート部キャプテン 3-2 齊藤幸哉くん



58年ぶりの全国優勝を遂げたスケート部主将の齊藤くん。「夏からの練習が報われて素直に嬉しかったです」と喜びを語ってくれました。と同時に「他の部活動はコロナで大会がなくなっていたので、自分たちもそうなる

かもしれないと思っていました。でも開催されると信じて練習していくしかなかったです。」と複雑な心境ものぞかせました。

スケートは幼稚園年中から始めて、小中はずっと夏は野球、冬はスケートの生活。野球ではなかなか勝つ喜びを得られず、高校からはスケートで頑張りたいと三条高校に進学。2年次にキャプテンに指名された時は、「言葉ではなく行動で示す自分の姿勢が評価されたのかな」と自己分析。今年のチームは互いに高め合う関係があったと言います。それぞれにライバル意識があり、練習で出てくる数値にこだわって刺激し合う関係だったと振り返ります。「後輩は頼もしいです」と自分よりも後輩をたてていました。

今大会のチームパシュートでは先頭を多く担い、チームをそれこそ引っ張っていきました。「パシュートは自信がありました。監督の作戦通りです」と自信をのぞかせました。総合優勝は見えてたのですかと聞くと、「北海道大会でも、昨年の高校総体でもリレーで失敗していたので、余裕なんてなかったです。ずっと緊張感を保ったまま最後までいきました」と答えてくれました。

後藤先生は大会に入ったら細かなことは言わず、リラックスさせてくれるとのことで、「普段の練習も、他の学校と比べたらずっと短い練習ではありません。公立高校の優勝ということに価値があると思っています。」と胸を張ります。そして、「後藤先生のお陰で素晴らしい仲間と出会えて感謝しかありません。後輩たちは自分たちより力があります。ぜひ2連覇を果たしてほしい」とエール。

今後、入学してくる中学生にメッセージをお願いしたら、こんな答えが返ってきました。「高校生活はよくても悪くても、結局、自分次第です。弱い自分に流されないで頑張ってください」

4月から日大に進学しスケートを続ける。「将来、日の丸を背負える選手になりたい」さっと日の丸を口にす齊藤くんは心からすごいと思いました。日本代表に向かって Fight !